

2025年度 まことこども園 自己評価公表シート

1・園の教育保育目標

「優しい思いやりのある子」

「明るい元気な子」

「何事にもがんばる子」

を教育保育目標とし、乳幼児期にふさわしい環境の下で、友達や保育者と楽しく充実した生活を営み、そして人間として生きる力の基礎となる、豊かな心、意欲、態度を育てること、すなわち『こころの育ち』を支えることを本園の目標としています。

2・2025年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した、園評価の具体的な目標や計画

保育棟

安全で活動しやすい環境を構築し、生活や遊びの中で十分に身体を動かす事を楽しむ。自分の感情をコントロール出来る様、自我の芽生え等を見落とさず、育んでいく。

幼児棟

友達関係を構築していく中で、思いやりや葛藤など心の成長に気付き、寄り添い促していく。丈夫な身体をつくる為、戸外で思い切り遊べる保育を進んで取り入れ実行する。

職員

個々の発達や、成長の段階を見極め、一人一人にあった保育を考え展開していく。研修にも積極的に参加し、学んだ事を園に還元出来る様努める。

3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
愛着形成を基本とし、子供たちが安心して毎日登園出来るよう、一人一人の状況をよく把握する。	A	一人一人の特性・発達状況を理解し、保育にあたる事を意識し、それをおおむね達成することができた。個人の指導案なども、担任だけでなく、職員で共有し、全員で取り組むことができた。
食事や運動を基本とし、日々の保育の中で友達や保育者との関りを楽しむ。子どもたちの意欲を引き出し、音楽・造形・英語など何事も楽しむ。	A	今年度も戸外で思い切り遊ぶ姿が多く見られた。保育者も率先して外での遊びを考え、取り入れながら子どもたちの身体の成長を促すことが出来た。また、講師の先生達とも密に連携を取る事で、子どもたちの興味や意欲も向上させることが出来た。
職員の資質向上の為に、研修等に参加し、乳幼児理解に努める。	B	今年度も色々な分野の研修に積極的に参加し、乳幼児教育保育の理解を深め、園に還元してくれた。まだ、保育実践のような研修に参加する機会が少なかったと感じる。

怪我、事故、災害時には職員全員が行動できるよう、安全に関する項目の共通理解を図る。また、園内環境整備にも目を配る。	A	様々なパターンで避難・火災・防犯訓練を行う事で、自分たちがどの様な動きを取ればいいかを全員で共有することができた。園内の環境整備も定期的に補修改修を行ったことで、安全に過ごすことが出来た。
保護者との信頼関係の構築に努める。	A	個人面談の機会が大幅に増加した。普段なかなかお話出来ない保護者とも、しっかりと現状や今後の展望をお話出来た。今後も個人面談の機会を確保し、保護者との連携を図っていきたい。

4・園評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が研修に積極的に参加した事で、色々な分野の知識を学び、共有する事ができた。 ・今年度も園児の急な病気や怪我に関して迅速に行動し、医療機関にスムーズに引き継ぐことができた。大きな事故もなく無事に終わられたのは、指導案作成から保育までが一貫した流れで行う事が出来たからであり、研修・訓練を行った成果である。また、子どもの情報を全職員で共有する事で、トラブルの際には迅速な動きが出来ている。 ・前年度末行った施設関係者評価を基に修正・改善を行った。発表会の開催形式を変更したが、保護者からの意見にて、様々な改善・修正点が見えてきた。2026年度に更なる改善を予定している。 ・夏場には、園庭にサンシェードを設置した。日陰を作る事で、暑さが和らいだ。来年度も工夫をしながら、暑さ対策を行っていく。

5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全・衛生面の強化	遊具・保育室等、環境の見直し・点検(安全面に関して)。急な病気・怪我への対応を全員がスムーズに出来る様、学ぶ機会を増やしていく。
職員の自己研鑽	自身で学びたい保育の研修への積極的参加。研修で得た知識・技能の共有。消防署との連携(AED使用講習等)。
子育て支援の強化	子育て支援の重要性が年々高まっている中、乳幼児期の親子が安心して集まれる居場所になれる様、今後も様々な催しを企画していく。低年齢の園児には保護者参加型の参観日を設け、親子で過ごす時間も大切に考えていく。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分でない
D	取組が不十分である